令和6年度
農林業近代化施設解体に関する説明会
議事録

令和7年3月22日 開会
令和7年3月22日 閉会

利根町農業政策課

令和6年度
農林業近代化施設解体に関する報告会

令和7年3月22日 午後2時00分開会

1. 住民参加者 30名

1. 出席職員

利根町長	佐々木喜章
総務課長	中村寛之
政策企画課長	布袋哲朗
財政課長	木村宜孝
農業政策課長	飯島弘
農業政策課課長補佐	荒井裕二
農業政策課係長	杉野拓紀

令和7年3月22日（土曜日）
午後2時00分開会

○農政課（杉野） それでは定刻になりましたので、農林業近代化施設の解体に関する説明会を始めさせていただきます。まず初めに佐々木町長から説明申し上げます。

○利根町長（佐々木喜章） 皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、農林業近代化施設の解体に関する説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

はじめに当該施設につきましては、住民の皆様には施設管理、石綿に関しまして、不安な思い、またご迷惑をおかけしましたこと、この場を借りて心よりお詫び申し上げます。

本日皆様にご説明させていただきます、当該施設の解体につきましては、3月議会の一般質問でも答弁させていただきました通り、農林業近代化施設の早期除却に向けて、令和7年度当初予算に施設解体設計業務委託の契約を行うことにより、解体方法や解体費などの詳細がわかりますので、令和7年度の補正予算に解体費を計上し、近隣住民の皆様の不安を取り除くためにも、令和7年度中の除却を目指します。

ただし、工事の進捗状況によりましては、令和8年度当初までかかる場合もございますことをご了解いただきたいと思います。

最後になりますが、改めて住民の皆様には当該施設の施設管理、石綿に関しまして不安な思い、またご迷惑をおかけしましたことを大変申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

○農政課（杉野） 次に予算関係につきまして、木村財政課長より説明申し上げます。

○財政課長（木村） 財政課の木村でございます。

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

予算関連につきまして私の方からご説明させていただきたいと思っております。

すみません。着座にてご説明させていただきます。

まず、本予算につきましては解体に関わる予算につきましては、3月の定例議会におきまして本谷議員の一般質問の方で私の方から答弁させていただいてる通りでございます、今町長の方からも冒頭少しお話がありましたけれども、解体設計費につきましては、令和7年度当初予算に660万円を計上してございます。

こちらの設計を基にいたしまして、工事費の方を算出する形になります。

工事費でございますが、前回の説明会の時に、私の方から約8,000万円程度の金額の見積もりが上がっ

ているということでご説明させていただいていると思うんですけども、こちらの8,000万円の財源でございますが、通常、前回の説明会のときは、3～4年積み立てをさせていただきたいということで私のほうでお話をさせていただいているんですけども、町長の方から、早期除却に向けてなんとか予算運用の段取りをできないかというような話もありまして、実際には、なかなか苦しいところではございますけれども町民の皆様の生活に影響が出ない範囲で、予算の措置をさせて頂きたいと思っております。まず、8,000万円のうち6,000万円につきましては、通常の一般財源を入れるような形になってくるんですけども、6,000万円のうち3,000万円につきましては令和6年度の9月の補正予算で積立を行っております公共公益施設の維持整備基金、こちらに3,000万円を昨年9月に積立しております。こちらの3,000万円につきましては、今後の施設管理等の修繕等に備えて、3,000万円積んだところでございますけれども、順番がいろいろ逆になっちゃうかもしれませんけれども、除却に向けた費用の一部としてこちらの3,000万円を充てさせていただきたいと思っております。

この後、年度が切り替わりまして令和6年度の繰越金、あと歳入のほうで地方交付税のうち普通交付税につきましては、予算組みの段階で、歳入割れを起こさないように、あらかじめ普通交付税につきましては歳入を低く見積もってございます。

例年当初予算額よりも、多めの地方交付税が措置されるということがございまして、こちらの繰越金と地方交付税の増額分につきましては例年9月の補正予算で歳入の方で調整をさせていただいております。

そこで通常歳入の方が増えるわけなので、お金がいわば簡単に言えば余るという形になります。そちらの余剰金につきましては例年財政調整基金であったり、その他の基金に積み立てを行いまして、翌年度以降に備えるという形なんですけれども、前回の説明ではこちらの積み立てをする基金の一部をまた3,000万円積んでというようなお話をさせていただいてると思っております。

そこの積もうとしていた3,000万円を直接工事費の方に充てさせていただくような補正予算を組ませていただきます。

こちらで6,000万円を確保させて頂きたいと思っております。

後、前回の説明会にして除却に関わる予算っていうか費用に対しましては、極力、私どものほうといたしましては起債、いわば借金。

借金で対応するという事は避けたいと考えております。

こちらの理由なんですけれども、こちら3月議会でご説明しましたが、起債というのは、後の年度に、これ以降で、次の世代に負担を残すという形になります。

皆様もローンとかを組んでお支払いしていると思うんですけども、それがローンで組んだものが、後々皆さんのその利益に値するのであれば、そのあとの歳というか若い世代の方に負担を求めていくということも当然それは必要なのかなと思っております。

例えばわかりやすく言うと道路であったり施設整備であったり新しい建物を作ったりということであれば、借金をしてお金を返していくっていうことであって若い世代の方も当然その施設であったり道路であったり、受益を有するということになりますので、その負担をお願いするっていうのは当然かなと思っておりますが、除却に関しましては取り壊しに対しまして、後々の世代にその負担を求めていくというのはなかなか難しい、理解が得られないところで、実際に地方財政法でもその辺も、例外を除いて起債は起こせないという形になっています。

一部例外で、2つ除却に関する起債はあるんですけども、1つは全く交付税措置となくて、ただ借金をして後々返していくというような形。

もう1つは、アスベストの除去に関するものにつきましては、取り壊しの際に起債を起こせることになっております。

こちらは解体であったり修繕工事で発生するものであったりというところで使えるんですけども、こちらにつきましては、例外的に特別交付税の方に起債の、償還額の40%が算入されるというような例外的な起債がございまして。

借金では後々の負担を求めていくという形にはなるんですけども、後々その一般財源で2,000万を用意するよりは、交付税の方で40%、4割補填してもらえるとということでございますので、こちらは例外的に使わせていただこうかなと。

見積もりの段階でだいたいアスベストの除去のみで2,000万円程度の金額が出てございますので2,000万円。

こちらをアスベスト除去の起債で起こして8,000万円を確保させていただきたいと考えております。

一応予算組みにつきましてはそういった形で対応したいと思うんですけれども、予算の関連で、要はどういう流れで除却に向けた工事が進んでいくのかということをお聞きを本気でじっくりなんですけれどもご説明させていただきたいと思っております。

先ほど申し上げました通り令和7年度当初予算に設計費の方を予算を計上してございます。

こちらの予算をもとにいたしまして、4月に、設計の業者選定ということで、こちらの指名競争入札になると思いますが、入札の方を実施したいと思っております。

そちらで落札された業者の方で設計を委託するという形になります。

設計の期間なんですけれども、担当課の方で125日で大体4ヶ月ぐらいということで見込んでるんですけれども、このスケジュールといいますと、4月に入札を行って5月頭に契約をいたしまして、そこから4ヶ月ぐらいの期間ということだと、それから8月の末から9月の頭ぐらいにかかってくるのかなという形になります。

こちらは業者さんの進行次第になってくると思うんですけれども、工期というか契約期間を8月末までということで8月末までぎりぎりまでかかるということじゃなくて、工期をそのぐらい見込むという形。一番最長になった場合はそういう形になってくると思っております。

そこで設計の成果品が上がってきますので、それをもとに除却工事に対する予算組みをさせていただきたいと思っております。

これが先ほど町長が申し上げた補正予算で対応するという形になります。

間に合えば9月の定例会議の方で補正予算を上程したいんですけれども、実際の議案提出が議会開会の日から逆算しますとちょっと間に合わないのかなという部分があるので、可能であれば議会開会中に予算がまとまれば、追加議案ということで議会最終日に審議していただくような形で上程したいと思っております。

9月の定例会で間に合わない場合は直近で臨時会を招集させていただいて、臨時会の方で審議させていただくような段取りなんですけれども、どちらにしても9月ぐらいに補正予算のほうで成立いたしまして、そこから今度工事の方の入札という形になってきます。

工事の方の入札こちら金額が、3,000万円を超える工事になってきますので一般競争入札という形になります。

一般競争入札の場合、通常の入札より時間がかかる形。

公告をして業者を指名せずに条件だけを付して、この条件を満たしている業者さんであれば入札できますよという形で一般競争入札を行うんですけれども、大体1ヶ月半ぐらいの入札公告の時間を要しますので、一般競争入札が実際に行われるのは11月下旬ぐらいになってくるのかなあとということで見込んでおります。

その入札がありましたらそこで仮契約という形になりまして、そのあと金額的に今度5,000万円以上の予定価格の案件になりますと、議会の承認案件になってきます。

議会で本契約の承認をいただく必要が発生いたしますので、12月議会に、その本契約が間に合えばいいんですけれども、ちょっと間に合わない場合には、やはり定例会終了後に臨時会を招集させていただいてそちらで契約締結という形になってきます。

工事の業者さんが決まるのが大体12月ぐらいになってくるのかなという形になります。

そこから工事着工という形になりますので、工事着工は業者さんの都合にも左右される部分はあるんですけれども、年明け、いろいろな機材の手配とかを含めますと、年明けになってくるのかなという形で、1月から工事着工へというような形になっています。

当然年度末にさしかかりますので、工期が間に合わないというような場合には、当然工期を延長して4月とかにずれ込んでいく可能性はありますけれども予算措置といたしましては、令和7年度中に工事の方の予算を組ませていただいて、年度内に解体工事を着工をさせていただく。

最終的な竣工につきましては年度を跨ぐ可能性も今の時点ではちょっと否定できないかなという部分がございます。

どちらにいたしましても、通常設計と工事施工を、同一年度にやるっていうのは非常に例外中の例外の措置でございます。

通常予算組みする段階では、前年度に設計をやって次の年に工事着工という形の流れがありますので、今回はあくまでもイレギュラーな形で、特例的な形なるべく早期に除却するという前提で予算を組ませていただくことをご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○農政課（杉野）次に、飯島農業政策課長より報告申し上げます。

○農政課（飯島）農業政策課の飯島です。よろしくお願いいたします。

農業政策課からは補助金の返還と清掃業務についてご報告申し上げます。

初めに補助金の返還義務についてでございますが、現在、在籍しております過去の関係者も含め、確認いたしましたところ、一般的な補助金の例により、財産処分をする際には償還期限に合わせて補助金を返還するものであると、平成8年度から、引き継がれ、それ以降の担当職員の共通認識であったことを確認いたしました。

このような共通認識のもと、4月5月の説明会において補助金返還義務についてご説明させていただき、住民の皆様に対し混乱を招いてしまい大変ご迷惑をおかけしてしまったことを深く反省しております。

今後は何事も確認し、確定した情報発信に努めて参ります。

未確認の情報をご説明してしまいご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

次に清掃業務でございますが、前任者からの引き継ぎにより4月以降速やかに契約し、履行することとなっておりましたので、これに基づき実施したものでございます。

私どもといたしましては、清掃業者と廃棄物処理業務委託契約をすることで、廃棄物を適切に処理していただけることと思いき、廃掃法などの確認を怠ってしまい、これにより産業廃棄物管理票に誤った記載、排出事業者の責任を果たさず、廃棄物の処理を行ってしまいました。

今後は業務を委託する際、関係法令を確認し適切に対応して参ります。

ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

説明については以上となります。

○農政課（杉野）それではただいま申し上げました説明につきまして、何かご意見等ございましたら、挙手をお願いいたします。

また、発言の際はマイクを渡しますのでお名前の後にご意見等の発言をお願いいたします。

○参加者A もえぎ野台の〇〇と申します。

この度はこういう形で説明会を開催していただきましてありがとうございます。

その上で何点か、ご指摘というか質問をさせていただきます。

この間の議会は私もYouTubeで中継やっていますんで、拝見させていただきました。

開催日の3日だけ最初。その日はYouTube公開されてないんですけど、4日以降の部分で確認させていただきましたので、町長の答弁とかも確認をさせていただきました。

その時の内容をね、何ら相違ないで一安心っていうところなんですけれども、そもそも今日は報告事項に関して何かしら資料とか、そういうものはないんでしょうか。

この場が公の場での正式な町の回答っていうふうにとらえていいですかね。

議会で答弁されている話ですから、それはそうなんですけど、何でこんなこと言うかっていうと、我々この1年近くこの問題に携わってきて、いまだに腑に落ちないというか今までの町のやり方っていうか、そういうことに憤りがね、収めきれない状態なんですよ。

2月1日の段階から今日、この日を迎えて、だいぶ町の方でも検討していただいたんだっていうことでは評価はあるんですけども。

そうは言ってもね、この1年間、我々も仕事や家庭を犠牲にしてこの問題に取り組んできたわけですから、せめてこういったふうになりますっていう約束を、きちっと書面で残して、場合によっちゃ、ホームページに公開するとか、書面で我々に配布するとか、そういった形が欲しいですね。

今日これ多分新聞記者さんも入ってそうな気がするんですけど新聞に載りゃそれで済む話かもしれないけど、そういった形はねとっていただきたいと思います。

2月1日の、段階で、あの時は、数ある説明会の中で一番炎上した説明会だと思うんですね。

何で町長いないんだ。なんだこの案って。

それを踏まえて考えていただいたんでしょうけど、2月1日の説明では、あのときのね、町の提案の仕方は一案、二案を提示します。

10年から11年、11年から12年の除却、この2案しかないんだ、それ以外の選択肢はないんだ。

それを無理やりやろうとすれば、住民サービスには何か削るか、場合によっちゃ、給食費の無料化を辞めにするかみたいな、半ばおどしみたいな発言があったと思います。

これ議事録にも出てますよね。

あのときは、そういう事情があったかもしれないけど、それを町長の差配によってこういうふうには、

我々住民にとって貢献したのは評価しますが、それまでのいきさつがやっぱり納得いかないんですよ。

なんでそういうこれだけ請願が採択されたにもかかわらず、そういう案がまず出てくるのかって言うところを、そういうところに行政の資質がやっぱり疑われるわけで、そのへんが、どう改善するのかっていうのがわからないと、我々この問題はひざを落としてお互いにね、行政も住民も残ると思うので、これしっかり対応していただきたいと思います。

結局のところ町長に直接談判したので、こういうふうになったっていうね。

そういうふうに思えてならないんですよ。

夏に町長選挙ありますよね。

佐々木町長が、もしまた町長じゃなくなったら変わるんじゃないかっていう、そういう、うがった見方もあるんですよ。

ですので、ぜひこういうふうに決めたんだっていうことを、補正予算の話はねまだ議会で、揉んでもないでしょうからね、言えない事情はあるかもしれないけれども、こうやって公の場でね、それを差し置いて、町長、財政課長の方からご発言がありましたんで、書面ですとか、公表しようということで、記録に残して、間違いなくそういうふうにするんだということを、ご表明いただければいいかなというふうに思います。

あと先ほど農政課長、ついでに言うておきますけど、農政課長からもお詫びの話がありました。

こちら先ほどの話と同じように、町のやり方がどうしても我々がこれから変わるだろうというところが、まだ見えてこない。

私非公式の協議の中で、町長に直接申し上げました。総務課長にも直接申し上げました。

町としてのけじめをつけてください。

ということで、そういう発言はなかったですよ、今後ないようにします。反省してます。お詫びします。いやそれだけで納得しない人もこの中にいるかと思うんです。私も全くできません。

そういうことはしっかり、やっていただいて、ここでけじめをつけた上で今後の町政に、活かしていただければいいかなと思ってここまで話してるわけなので、その辺はぜひお願いしたいと思います。

補助金の返還義務に関してもそう。この1年間ずっと我々は、これは嘘の話をまくし上げて言ったんじゃないか、結局のところ、どっかの誰かさんが昔から引き継いだ補助金を返さなきゃいけないんだという情報を、いつの間にか3月7日の時点で、これが町政の中で真実のように語られて、それをそのまま町民にしゃべってしまって、半ばこうしなければ、こうしていかなければ続けるしかないんだっていうような。

そういうふうに話を持っていったことは事実なんで、それに対してもけじめをしっかりつけて欲しいし、アスベストの違反についてもそうですよね。

これ謝って済む話じゃないと思うんです。懲役5年、1,000万の罰金。こういうものが課される罪なわけですよ。これって謝って済む話じゃないと思うんですよね。そういうことも謝って済む話ではないと思うんですよ。私は10月の説明会で発言をさせていただきました。

排出事業者責任としてやらなきゃいけないことをやっていないと。

泡食って5月に片付けた4月5月に片付けたときも、これおそらく、ああいう片付け方をしてるわけですから、割れたケイカル板の屑が他の、木屑や廃プラスチックに乗っかってるかもしれない。

それを、何も考えずに普通にダンプに載せて排出して、白井や牛久や成田の方へばら撒いてきてんじゃないのかと、そういう可能性も否定できないでしょうと、そういう話もあるわけですよ。

こういったことはやっぱりないようにするために厳しいアスベスト関連法案があるわけで、なおかつ罰則もあるわけで、そういったことに関しては謝って済むことではないと思いますんで、この辺は考えていただきたいと思います。

○農政課(杉野) 貴重なご意見ありがとうございます。他にございますか。

○参加者A いや、回答がないじゃん。

○農政課(飯島) 先ほど財政課長の方からご説明しました工事の予定ですか、そちらにつきましては、ホームページの方にきちんと掲載させていただきます。

○利根町長(佐々木喜章) 補助金の返還について、未確認情報を住民説明会の場で軽率に発言し、混乱を招いたことにつきましては顛末書を徴取いたしますので、そちらを利根町職員考査委員会に提出し、調査及び審議を求めて参ります。

○農政課(杉野) はい、他に意見ございますでしょうか。

○参加者A アスベストは。

○農政課（飯島）アスベストの件につきましても、今、町長が申した通り、顛末書の方を添付していきたいと思います。

○農政課（杉野）よろしいでしょうか。

○参加者B もえぎ野台在住の〇〇と申します。よろしく申し上げます。

請願 157 名の代表を務めております。

今町長がおっしゃった、顛末書、私初めて聞いた言葉ですけれども、それをどういう人達から徴取してどのような手続きを取って、最終的にどのような判断を執行部は行うのでしょうか。

○農政課（杉野）総務課長お願いします。

○総務課（中村）そちらにつきましては農業政策課長それから財政課長から顛末書を取りまして、利根町考査委員会規定ってというのがありまして、そこでその組織の中にメンバーとして総務課長、副委員長として政策企画課長、議会事務局長、農業委員会事務局長、学校教育課長がいますので、そこで顛末書に基づいて、こちらが懲戒の方に当てはまるかどうかという調査及び審査をしまして、そこで次の段階に行くっていう形になります。

○参加者B これ訓令第 2 号の懲罰委員会を実施するということですね。

○総務課（中村）いや利根町職員考査委員会。

○参加者B これは懲罰に関する委員会なんですか。

○総務課（中村）はい。その通りでございます。

○参加者B わかりました。もう一点お聞きしたいのですが、先ほど参加者Aさんが言った通りですね、もえぎ野台住民が今年の 4 月、5 月のきくらげ栽培契約の 3 度にわたる説明会において、大変な心のストレスであったり時間、労力を費やしてですね、それと 8 月に請願書を提出、議員さんたちに特別委員会で審議してございまして、12 月に採択されましたね。

執行部からの回答が 3 月の議会で示されるはずであったと私は期待していたんですが、2 名の議員からの一般質問で除却についての質問以外、回答らしきものを私は聞かなかったんですが、請願項目がですね 1 番は白紙化しましたからこれは除外しまして、早期除却、3 番は今までの行政の手続きについてですね、4 番が近隣住民や自然環境との共生する本来の農林業近代に資することを検討して欲しいと、この 4 つのうち 2 番の早期除却しか 3 月議会では、回答がなかった。

今 3 番のご説明していただきましたけど 4 番についてはまだご回答いただいてないので、今、していただきたいと思います。

○農政課（飯島）はい。まず、早期除却をしてから、そのあとの利活用協議会を立ち上げまして、そこで協議していくというような形でやらせていただきたいと思っております。

○参加者B これも町長選がございまして、町長が変わってそのような計画が変わらないように保証していただだけませんか。執行しますという確約を何らかの形で示して欲しいんですけど。

○総務課（中村）そちらにつきましては先ほど飯島課長の方から言ったようにホームページの方に早期除却が終わり次第、利活用協議会も立ち上げますということで載せます。

それで、その中には当然町長と話した中で、もえぎ野台の方にも利活用の中に入れていただいて、それで今後利活用の方を進めたいっていうふうはこちら考えておりますので、その辺もホームページの方に載せるようにいたします。

○参加者B はい。わかりました。

先ほどの 3 番の虚偽説明、私たちは虚偽説明と言っております。

国へ 7、8 千万円の補助金返還義務があるんだと。おっしゃったことは、これ虚偽があると。

これはもう何べんも今まで説明会でもやり取りしてきた中で、行政側は決して虚偽ではないと言ってますよね。間違いであると。

その間違いってのは 30 年前から続いてきた返却しないといけないんだという、申し伝え通り信じてきたからこうなったんだということですよ。3 月 7 日の回答によりますと。

だからこれは完全な行政の怠慢なんですよ。何も仕事をしてこなかったということに当たります。

30 数年間。非常に貴重な、これは内容でしてね。なぜかっていうと、詐欺行為に当たるんですよ。

不動産の契約時において、虚偽をしたわけです。

これは今回、詐欺未遂事件ですけども、我々だまされなかったんですけどもね、途中まではだまされてました。

もえぎ野台の自治会としても話し合っ、今の状態より良くなるんだから、だけど管理体制が不満だか

ら、行政が今まで通り管理してくださいっていうことを、もう会長からの文書で何度もやり取りしてますよ。そこまで私たちは信じてたんですが、6月頃どうもおかしいんじゃない。

何で30数年間も放置してたのに、今もう25年間の、返還義務があるんだっていうことを我々に言うてくるのか、疑問に思っただけで調べていたらそんな義務は全くないことが分かったんですね。ですからこれは行政側にとっては勘違いだったって言うかもしれないけど、私たちにとっては、詐欺にあったことと同じことなわけですよ。虚偽なんですよ。

これね、調べていきますと、虚偽と嘘っていうのは同義語ですよ。

真実でないこと、嘘偽りが虚偽ですよ。

広辞苑で見ると。嘘を調べると真実ではないこと偽りです。同じことなんですよ。

ですから間違えたんだっておっしゃいますけれども、私たちにとっては、間違ったことを説明されたわけですよ。これは虚偽に当たります。このまま詐欺未遂行為として、これかなり重たい刑罰が課せられるんですよ。国が判断するんだと。

ですから、今この場で謝罪申し上げますというようなレベルではないんですよ。

行政が町民に対して詐欺行為を行ったというこの事実は曲げられないことなんですよ。

ですからそういうことを重く受けとめてですね、重く受け止めてその顛末書ですよ。

そういうものをこれから作成されて、どのような懲戒処分の判断をされるのか、私たちは見守っていきたいと思います。よろしいでしょうか。

ご反論あるのであればどうぞお願いします。

○農政課(杉野) はい、ありがとうございます。他に何かご意見ございますでしょうか。

○参加者C もえぎ野台の〇〇と申します。2つ質問をさせていただきたいと思います。

まず、その前にですね、令和7年度のまず目標で事業の方を進めるっていうことでできるだけ日程通りに進めていただければというふうに思っています。それからその進捗をですねぜひ可視化して、ホームページに公開していただきたいというのがまずお願いでございます。

1つ目の質問なんですけども、先ほど木村課長の方から除去の予算として8,000万円のお話しありましたが、除去と言うのはどのレベルまでやっていくのかってところの説明がなかったので、具体的にその除去の内容について説明もお願いしたいと思います。

私は今回のアスベストの問題も含めて、土地土壌調査も含めてきちんとそこまでやって更地にするようなところまでやっていただければというふうに思っています。具体的に今回の予算のベースになっている、その内容をぜひ聞きたいです。これが一件目です。

○農政課(飯島) その施設の除却っていうことですが、あそこに建ってますすべての建物を撤去しまして、下の基礎とかございますけれども、あとアスファルトとかもございまして、そういうのをすべて除却するってような形が今回の工事となります。

○参加者C そうしますと私がお話した内容とほぼほぼ同じと考えてよろしいですか。

○農政課(飯島) 土の検査、そこまでは今のところ考えてはございません。

○参加者C これからの設計をやるって話もありましたけれども、そのリスクがどれぐらいあるかも含めてぜひ検討をお願いしたいと思います。

私も専門家ではないので、その必要性を含めて、明確に言えないんですけども、やはり心配は残ってますので検討をお願いします。これが1点目。

あと2点目なんですけど、今回の事案、先ほどちょっとお話しあったんですけども、昨年の3月に説明会があって、8,000万の返還義務があるので、それ今回はその施設を有効活用したい。新規事業を入れたいというそれが前提で、今回の話をスタートしたわけです。

私も実は最初賛成しました。

ただそのあともいろんな経緯で、もうだまされたというふうに僕は思っています。

そういうことを考えると、先ほど飯島課長の方から話あったように、要は前の担当の方から聞いた話で、それがベースで今回のような新規事業がどんどん進められる。計画されて進められる。

そういうのを考えると私はちょっと役場の中の、過去の契約だとかいろんな文書だとかそういう管理だとか、それから情報管理、そこにやっぱり1つ大きな課題があると同時に、行政のプロセスのその企画だとか、それから判断だとか承認プロセス。ここに大きな欠点があるんじゃないかなと。

今回の事案はやっぱり今回の事案に限らず、それ以外の事案の中に、やっぱりこういう問題があるんじゃないかなと思っています。強く思っています。

そこで2つ目の質問なんですけど、今回の事案をベースに皆さん役場の中で、今回の課題、問題という

のはどういうところにあったのか。今後どうすべきか。

そういう内部の意見交換ですとか、そういうその打ち合わせっていうのを行っているのかどうかっていうところをお聞かせください。

○総務課（中村） 役場全体のことで言わせていただくと、今回の事例がありましたので、今回担当する課長には町長の方から話がありました。

それを含めて、次の庁議あたりでは今回の説明会、それも含めて、この町の情報管理であったり、この引き継ぎの仕方、引き継ぎの仕方についてはもう町長の方から毎回のようによく注意するように、注意するように、ということは言っておるんですけども、また今回こういうことがありましたので、その辺につきましては今後も徹底していきたいと思います。

○参加者C わかりました。ぜひですね、やっぱりピフォーアフターでちゃんとこう可視化しないとだめだと思うんですね。今まではこういうやり方をしました。今後はこの根拠について、どういうふうに変更していきます。だから大丈夫なんですと。行政のプロセスは大変なんですと。

これを言えるようにしていただきたいというのがお願いします。

我々住民もそれをきちんと理解して、今後役場のお話も聞きたいと思いますので、それはお願いします。

○総務課（中村） 貴重なご意見ありがとうございました。次の庁議の方でも、そういったことをお話しさせていただきます。ありがとうございました。

○農政課（杉野） ありがとうございます。他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

○参加者D もえぎ野台の〇〇と申します。

先ほど顛末書と言う聞いたことがない、生活で聞いたことがない言葉があったんですが、これを役場の方で作ってそれで審議をするという考査委員会ですか、審議をするということだったんですけども、これはいつ始めていつまでに結論が出る予定なんですか。

それは住民に知らされるべきものなんですか。

それと、そのメンバーに、そこに、それになってる方も入ってらっしゃるようなんですけども、第三者委員会ではないんでしょうか。教えてください。

○総務課（中村） 今日ここで町長からそういう発言がありましたので、これの考査委員会の規定の中に任命権者の求めに応じ調査及び審議しその結果を報告するものとするっていうことで、利根町職員考査委員会規程第2条に載っておりますので、そちらのことを今回行うということで今日話したわけでございます。

ですので、今回もう一度、話し合いをしまして、先ほど言ったように農業政策課長それから財政課長の方から今回のいきさつの件、こういう形で言って皆様に混乱を招くようなことをしてしまいました。

参加者Bさんから強く言われて、その辺はもう混乱だけじゃないよということをおっしゃって、意見としてはありますので、その辺も踏まえて、顛末書をまず町長に提出していただきまして、その後、先ほど言ったように、ここのメンバー、考査委員会のメンバーには総務課長、副委員長に政策企画課長、それから議会事務局長、農業委員会事務局長、学校教育課長ということで一応こちら5人ということで、やっておりますので、今回そこに入っている人もいますので、その方は抜いて、次の段階、分限及び懲戒免職処分に当たるのかどうかっていう審査をまずここでします。

そして当たるっていうことになれば、今度は利根町職員分限懲戒等審査委員会の方にかけるような形になります。

こちらについてはメンバーが変わりますので、町の例規っていうことで見ていただければ、その中に両方載っております。

今回の委員会は今度委員長には教育長になってということで、メンバーも増えるような形になります。

読み上げた方がよろしければ読み上げますが、どうでしょうか、後で見ていただけますかね。

メンバーはちょっと増えるような形になります。

第三者委員会っていうことでありますが、それはないです。以上でございます。

○参加者A 参加者Bさんの話を踏まえておくと、結局、今ままで、行政対住民っていう形になっちゃってるじゃないですか。

いまだに不信感が抜けないというのはやっぱり、請願項目の3番目については全然、納得できないような状態で、いまだに虚偽だの虚偽じゃないだの、アスベストの法違反についても、しゃきっとどういいうけじめをつけるんだか示さない。で、あえて言いますが、前回説明会の後に、埒があかないんで非公式にもえぎ野台自治会と行政の方で協議をさせていただきました。その中で、もうさんざん同じことを言ってます。

で、会長あてに最終のこれは農政課だけが作った書類かもしれませんが、回答文が来ました。これ今まで1年間話したことと何ら変わらないんだよね。

お詫び申し上げます。

すみませんでした。

今後はないようにします。

それだけなんですよ。

先ほども言いましたけど、さっき参加者Cさんから、発言ありましたけど、やっぱり我々が今後も知りたいのはどうやったら行政が正しい住民に向き合って正しい行政を、今もうほとんどはちゃんとやってもらってると思うんだけど、この件に関しては本当ひどかったですね。

最初のスタートの説明会のときから、最後まで、やっと除却だけは7年度中にやっていただけるっていうことで、その部分は評価しますけど、それやっぱりいわば住民がこれだけ反対したから、成し遂げた事項だけであって、これから行政がどういうふうになくなっていくか良くしてもらえるかっていう部分は、全然今のままでは解決しないんですよ。

その中で先ほど第三者委員会ではないんだけど、結局、今までやりとり聞いてれば、そっちはそっちで内輪でやってるんだよね。

結局この顛末も内輪でしかけじめつけられないんじゃないかと思うんですよ。

ですんで、参加者Bさんは何度も、2月1日の説明会で発言されましたよね。

ちゃんとけじめをつけて、審査委員会ね懲戒委員会、かけるなりなんなりして、第三者の目線も入れてやってくださいよっていう話なので、やっぱりこれは第三者の目はやっぱり我々も入れてもらうべきだと思うんですよ。

それは規定上そういうのはイレギュラーでなかなかやりづらいかもしいけど、これだけ騒ぎになって新聞にも出てるような、事件と言ってもいいぐらいの騒ぎになってるわけですから、それはぜひやっていただきたいと思います。

なんだったら第三者が、参考人で我々も入るし、一番いいのは請願を採択した議会議員さんの中からメンバーを入れるっていうのも手はあるんじゃないですか。

そういうことは、もうちょっとどうやったらこの問題がしっかり、解決して、今後の行政に生かせるかっていうのを考えて、やっていただきたいなと思います。

○総務課（中村） はい。ありがとうございます。

それにつきましては、もう一度持ち帰って検討させていただいて話をさせていただきます。

○参加者A この回答はいついただけますか。

○総務課（中村） 今月中にはしたいと考えております。

そちらの回答につきましても自治会長さんに送ればよろしいですか。それともホームページ等での回答の方がよろしいですか。

（「両方お願いします。」と呼ぶ者あり）

○総務課（中村） はい、わかりました。

○農政課（杉野） その他ございますでしょうか。

○参加者E もえぎ野台の〇〇と申します。

2つあります。1つは町長さんに対して、2つは、ちょっと細かい話になるんですけど、除却の車両が入ったときの、近所の住民としての希望ということで、2つの話します。

その1番目の町長に対してっていう話なんですけど、今も参加者Aさんが、ここまで住民と行政とがすごく対立してここまで来てしまった。とても残念なことで、今後改善して欲しいという大きな声だったんですけど、私が思うには一番最初4月の説明会のときに、町のを、人に貸すということですから、まずは、やっぱり町長が来て説明はすべきだったと思いますし、これから作るというその顛末書についてもなんか農政課と財政課長が、なんか間違いを犯した失敗したからということで、書いてもらいたい話でしたんですけど、やはり町長というのは町の行政のトップで責任者でありますから、すべての責任っていうのは行政のトップの。私たちは日常的にね、あの行政の窓口の町の職員の方たちには非常にいろいろお世話になっているいろいろなことをやるにしてもいろいろわからないと教えていただくことにしろ、いろいろな日常の業務については職員の方たちが非常にお世話になっています。

それは常に感謝しているところなんです。で、今回のこれの話ですが、町長さんはまずは先ほど参加者Aさんがおっしゃったように、こんな大事な説明会なのになんの資料も用意してないっていうこと。

それで町長さんもおっしゃいましたよね、議会で私は回答しているから、もう皆さん知ってるんですよ

と。

いやそうじゃないですよ。

やっぱり町民に対しての町民の説明会なんですから、議員に対しても回答じゃなく、やっぱり町民に対しても話というのはやっぱりこの場であるわけですよ。

ですから、議会の中で答弁した、業者の問題とか、お詫びの言葉とかっていうのは、まずは文章としてやはり住民に出すべきことだと思います。

それがまずは、一番最初腹が立ったことです。

それから2月1日の説明会、私たち住民、それこそもえぎ野台の住民に2択を迫ったんですよ。

それで農政課の課長さんも財政課の課長さんも非常に必死になって、この案を何とか通したいと、もう必死になってました。

行政の職員というのは、こういう問題が起きたときにはこうせざる得ないのか。ある意味、公務員って気の毒だなんていう、トップから言われたことはやっぱり必死になってやるべきことだっていうことで必死になってやって、公務員って辛いもんだなんてのは、私はその時思いました。

あれだけ財政課長はお金がないとか、もうこうなったら給食費無料化もできなくなるっていうふうに言ったものがね。

2月23日でしたか、行政の方でこの除却の予算をつけるような話を決定したっていう、話で耳に入りました。

町長の力って凄いなって、町長の一存で物事ってのは決まるんだ、行政のトップが決めたことってのは決まるんだってことで、私はやっぱりそういうようなことを感じましたので、町長さんの姿勢というのも非常に大きな大事なものだっていうふうに感じました。

ひょっとしたら、町長の専決、なんでしたっけ専決権ってありますよね。

それに準じたような形で緊急性を必要とするような決定として町長さん捉えて、予算組をしてくださったのかなというふうに思いました。予算を出してくださったってことに関しては感謝です。

ですけども、もっと早く町民を困らせたり不安に落とさないでやっていただきたかったなっていうふうに思います。

○利根町長（佐々木喜章） まず1つ、議会で議員に答弁したからいいってことは一言も言っておりません。2月の説明会の前にも職員と話し合ってます。

その後、職員だけで話し合って、説明会ではこういうことを言うよっていうのは聞いておりますが、いろんな意見を吸い取ってきてくれよと。そういうふうには話してますが、いろんなことをやる場合に最終決定権は私にあると思うんです。

住民の皆さん、私がこのきのこ工場を引き継ぐっていうときにはもう利活用ありきでした。

私もその辺は悪いとは思ってます。

何とか業者を見つけて、あそこを使ってもらうんだ。

また、東文間小学校も何とか使ってもらうんだっていう考え方で職員と話し合いながら、いろんな役場にこの施設を使ってくれる人はないかということでいろいろ探した結果、こういうことになったんですが、そして住民の皆様に説明する。

説明会を開くまでの間に2年間、業者が県南の総合事務所に行って、ここは使えるのかとか、こうしなきゃ使えないよとか、残高証明取ったり、いろいろ話し合いして役場の上層部の人たちと話し合いをして、これなら使えるっていう段階で初めて住民説明会に入っております。

じゃないと、最初来ました、こういうのやりたいんですって言って、それから途中で駄目になりましたんで、これ何回そういうのを繰り返しても、住民の人に迷惑かけます。

ですから、大体この業者で間違いないっていうところまでは、話を進めていってやってる状態でした。

だから東文間小学校も何十社も来てもしまだに決まりません。

いろんな話し合い1件来ると約2年。

ずっと30何年間、こう資料見返してみると、もう相当な数来てます。

きのこ工場はずっと何もありませんでした。

私になってから、この間やらないって言った業者で2社目です。

それも1社目のところも調べて、こうやって途中で駄目になったと。2社目は調べていってこれなら住民の皆さん納得してくれるだろうということで説明会を開かしていただいたのが話です。利活用ありきで動いてしまったっていう点には本当に申し訳なく思っているところです。以上です。

あと天の声みたく、そんなにあれやれこれやれって言っても、役場の中のあれは決まりませんよ。

総務課長から財政課長，政策企画課長，3階の課長さん，そうすると，あとはいろんなところの重要ポストの課長さんが集まって，いろんな意見を出していただいて，これならどうでしょうかって来たときに，いろんな話し合いをします。住民の方々から要望書なんか結構上がって来ますよ。

役場の仕事って，いろんな計画書ができ上がって初めて相手に入るってのもあるんです。

計画書もないのに行って，話しに乗ってくれないですから，企業の社長さんたち。ですから，そういうこともやっております。

よく議会の皆さんで計画書もないのに誰々に会いに行ったからって言われるんですが，私，計画書もないことに会いにも行けないんです。

ただ，口先だけでこれやってくれ，あれやってくれよっていう組織ではありませんので，まだ補助金をもらうにあたっては，その計画書がきちりでき上がってないと補助金は出ませんということです。

○参加者E 町長さん，今回は特別な措置として，設計と解体を同じ年にやるということは，本来ありえないことを今回やるわけですね，設計と工事とね。そんなふうに，やっぱり特例的な，特別な措置としてやるってことを決めたのはやはり町長さんであるし，それから町長の専決処分権みたいなそういう緊急性を，必要とするような，そういうような決定に準じたような決定をして予算措置をしたんじゃないかっていうふうに思うわけですからやはり町長さんのこれは今すぐにやはりやらなければ，町民の希望に沿ったことをしなきゃいけないんだっていうことを，やっぱり決めるかどうかみたいなことって非常に大きいことだし，それが力になるんですよ。

だからそういうところを私が言ってるんですよ。

ですから，だらだらかかったりしたことはやはり町長さんの腹の中にだらだらしたものがあつたから，こんなに時間がかかったんじゃないかって思ってるんです。それについてちゃんと認めていただきたいなっていうふうに思います。

○利根町長（佐々木喜章）今日の説明会をやるにあたって，もえぎ野台の人たちと2回話し合いをしております。

その中で指摘された，それをみんなで話し合いをいたしまして，それではということで，財政課に予算，どうせ来年度やるんだったらそのお金はどっから持ってくるんだ，で，今年度だったらどこから持ってくるんだ。同じじゃないかっていうふうに私は言いました。同じことなら，できる限り早くやったほうがいいんじゃないかっていうことで，まとまったものがこの案です。もえぎ野台の人たちの意見が，ここには強く入っております。

私の意見が強いついていうわけじゃなくて，もえぎ野台の人の意見が強く感じられたんで，そして話を集めて話をしてお金を持ってくるのを財政課長に聞いて，だからそれだったら来年使うのも今年使うのも一緒だろうということで，今年っていう決断をいたしました。

○参加者E 今後も町民の気持ちに寄り添って，よろしく願いいたします。

2つ目のよろしいですか。

先ほど参加者Cさんが質問してくださったように除却をどの程度までやるかって言ったら，やはり建物だけでなく全体を除却してくれる。つまり，元の農地に戻してくださるってことがわかりましたので1つ安心しました。

あと，設計が決まっている予算建てして，実際に業者の入札して決まって，そのあとで工事始まるわけですけども，あれだけの建物ですので，解体するのは時間もかかるしそれなりの準備が入るでしょうし，車両も。入るんじゃないかと思うんですね。

あそこの場所は非常に静かな場所で解体が始まると，やはりそれこそ大きな音もするでしょうし，周りは農道になってます。

一応町の町道にはなってますけれども，農家さんたちが農業をするまでの軽トラックとか農機具の車両のようなものしか普段は通ってないんですけど，解体するためにどういような車両が入ってくるのか，ちょっとそういうような心配があります。

あとそれからまだ設計が決まってないので，何とも言えないかと思うんですけど，アスベストが含まれてる建物の解体ですので，テレビなんかで見ると水をかけながらやるとか，そのシートを被せながらやってそれが風邪で飛ばないようにやるとか，そういうふうに周りに気をつけながら解体するって聞いてるんだけど，今のところわかってる範囲で結構ですので，その解体の方法と車両の問題と，そういうのわかりますかね。

○農政課（飯島）はい。確かに参加者Eさんが言うように，あそこの道は細くて農家の人を使う道となってますので，あそこに進入するにあたって，やはりそういう大きな機械が入ると，道路とか，壊して

しまいますので、そういうのにはならないように、あそこに鉄板を引いたりとか、あとおっきい機械が入っていけないので、あそこの道路入っていけるぐらいの車両ですかね。機械でやると思われます。それであと今言った水をかけてとか周りに幕を張ってとか、そういうのも多分処置してくれると思いますけれども、そういうのを今回設計でやっていただいて、また今後解体工事をするというふうになったときには、また皆様にご説明するような形になりますので、その時にはもっと詳しくご説明できると思います。

○参加者E ありがとうございます。

今後詳しく決まりましたらまた説明の方よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○農政課（杉野） ありがとうございます。他にございますでしょうか。

○参加者B ○○と申しますが、先ほど町長と総務課長から顛末書によってそれを審査し処分を検討するというご説明いただきましたけれども、行政側と我々、行政側と町民との間にこれだけ深い溝を作ってしまったのは、この1年間のきくらげ栽培の契約説明会から始まっているわけですよ。

ですから、私自身、今、顛末書ってなんだろうって。まずその内容からして疑わしいんですよ。

何を書くんですか。しかも、やった本人が自白するってのは大変難しいことでしてね。

その項目ごとに、答えていかないと。隠しますんで、自分のミスというのは。ですからそんな、当てにならない顛末書を基本にしてですよ、審査するっていうこと自体がまず私はあやしいなというふうに思ってしまう。

それで総務課長や他の課長さん、その審査の中に入っているのはぜひやめて欲しいと思いますよね。

その同一人物が審査をする立場じゃないと思いますので、ぜひ第三者または請願書を特別委員会で審議していただいた賛成議員の人たちですとか、例えば弁護士ですとか、そういう第三者の行政とは違う人たちが審査しなければ意味がないことじゃないですか。私はそのように思いますが、いかがでしょうか。

○総務課（中村） はい。そちらにつきましては、今町長とお話したんですけど、もえぎ野台の自治会長さん、もしよろしければ委員さんの中に入れていただいて、ただ参加者Bさんの言う、私を抜けとかっていうのは、それはちょっと決まりになっているんで入らせていただいて、そこに通常今まで、その委員会の中に第三者が入ったっていうのはほとんどないんですけど、今回自治会長さんにそこに入れていただいて、その辺の審査をしていただくってことでどうかなって考えておりますが、いかがでしょうか。

○参加者B 規則があるということならば、それなりの縛りをつけた参加の仕方ということも考えられるところですね。

なぜかっていうと、これ回答書にも書いてありますけども、現在、在職の職員一同が補助金の返還義務を有すると思っておりますって、みんな思ってたその人が審査できるわけじゃないでしょう。

客観的な立場じゃないんですから。そういう意味で言ってるんです。

ですから、総務課長がその場に在席しても結構ですが、オブザーバー的な形の参加ですとかね。

意見をおっしゃらない立場ですとか。だからそんなことじゃなければ内容は、内輪の判断になってしまう可能性が高いというふうに思ってます。

○総務課（中村） はい。そのような意見が出ました先ほど参加者Aさんからも同じことだと考えておりますので、自治会の代表者である参加者Fさんに入れていただいて、その辺、やらせていただければということで。

○参加者F お気持ちはわかりました。もえぎ野台の○○です。すみません、遅くなりまして。

今回ですね、この説明会に至るまで本当に皆様のご誠意というかご厚意というか、一生懸命考えていただいてありがとうございます。

令和7年中ということで本当にありがとうございます。

その中で今回ですね、前回説明会というか、もえぎ野台自治会との懇談会がありましたけども、やはり地方公共団体がやはり法令をですね、軽視しちゃいけないというのが大前提だと思ってます。

今回その最初の1年前ぐらいの説明会のときに、あれだけ住民が納得してるという中でスタートしましたが、やはりこう調べていくと、まだまだ違う、まだまだ明らかになっていない点が多分あったりとか、そういう論点があった中で、それでも訂正がなかったのが今ここに至ると思うんです。

ですから改めてその第三者委員会っていうか私も含めてですけども、その参加する参加しないかちょっと、今後検討しますけども、改めて地方公共団体が法令を遵守しない軽視することはあってはいけないということをよく理解していただいて進めてもらえたらと思います。

よろしくお願ひします。

○総務課（中村） 貴重な意見ありがとうございました。

委員になっていただけるかどうかちょっと検討していただいて。

はい。よろしくお願ひいたします。

○農政課（杉野） はい。ありがとうございました。その他ございますでしょうか。

○参加者D もえぎ野台の〇〇です。

いろいろ法令的な部分とか難しいことたくさんありますけれども、基本的には私たちは行政と争いをしたいと思ってるわけじゃありません。

本当に一緒にいい町を作っていきたいっていう思いだけなんです。

それで1年間一生懸命頑張ってきてますし、本当に正してリセットして、1から始めようっていうような土壌になればいいと思って、皆さんいろいろ調べたり勉強したりして、言ってるんだと思うんですね。

ですからね、メンタル的には決して対立しようと思ってここにいるわけではないので、もっと行政の方もそれを思って、ハートを持ってこの間も言いましたけれども、私たちと向き合っていただきたいと思ひます。

あと本当に、先ほど参加者Eさんも言ったように、役場に行くとき親身になって相談に乗ってくれたりする窓口の方とかたくさんいらっしゃるんですね。

そういう方たちの思いもありますしね。

どうぞ皆さんの方から私たちの方に逆に来てもらえるというか、こないだの説明会でも羽根野の会長さんもおっしゃってましたけれども、一度も行政の方から自分のところに来たことが8年間なかったとおっしゃってました。

で、普通に散歩してる方たちもきのこ工場の前にたくさんいます。

時間帯によっては本当にたくさんの方とすれ違ひます。

そういうところにふらっと歩いて町長さんもいらっしゃるって、みんなで話をしてみるとか。

何かそういう企画書がなければ話ができないってそういうことじゃなくて、もっとフランクに町のみんながそこで生活してるみんなで話をしてみるような、機会を持たれたらどうでしょうか。

そうするともう少し皆さんの気持ちとか、この町の良さとかが、私たちよりも多分ずっと子供の頃からここにいらっしゃるって、たくさんのお思い出とかあると思ひますし、ご存じだと思ひますので、いろんなことが考えられると思ひるので、もう一度ご自身を見つめなおすことも含めて、町の役場の中のことも見直して、私たちと一緒にいい街を作っていこうという思いになっていただければと思ひます。

○総務課（中村） 貴重な意見ありがとうございました。

今回も自治会の自治会長さん副会長さんや参加者Bさんの方と3人と町のほうでの話、理解させていただいてその辺の気持ちがわかって町長の方も早く除却っていうことを考えてというところもありますので、今後も今言ってくださったことを参考にして、参加者Eさんが言ってくれたことも参考にして、職員も一生懸命やってる職員もたくさんいますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。

○農政課（杉野） はい。他に意見ございますでしょうか。

○参加者G 横須賀の〇〇と申します。

もう、大分話がいろいろ出てると思ひるので、ちょっと趣旨がずれるかもしれないんですが、これからの大きな町のビジョンを教えてください。

○政策企画課（布袋） 政策企画課の布袋と申します。よろしくお願ひします。

今、総合振興計画の後期の計画の方を昨年度と今年度で策定をさせていただいてるわけなんですけれども、今、その計画書の方を持ってきてないんですけれども、今後6年後には、人口統計でいきますと約1万2900人ぐらいまで町民が減ってしまうというようなことで今推計をしまして、町ではこれをできるだけ緩やかにする。

人口が減っていくっていうのはもう致し方ないのかとは思ひますけれども、そこら辺も含めまして、公共交通もそうですし、高齢者対策だったり、少子化対策、そういうのも含めまして今回12年間の計画の半分が終わったということで、その辺の前期の計画の方の中身もこちらの方で検証しまして、見直しを行って、今回後期基本計画というものを策定させていただきました。

議会の方でも、基本構想につきましては議案として上程をさせていただきまして承認をいただいたところでです。

これから町民の皆様方には5月ゴールデンウィーク明けにはなってしまうかと思うんですけども、後期の基本計画の方の概要版というものをお示しをさせていただきまして、今後町の取り組みについて周知をさせていただきたいと思っております。

また皆様方にはいろいろご協力していただきたいところ、多々あると思いますのでその時にはまた町の方から積極的にこういう説明会等も開催しながらお願いをしていきたいというふうに考えておりますので、長期ビジョンという部分につきましては、その内容を見ていただければというふうに思っております。今、持ってなくて申し訳ございません。

○参加者G ありがとうございます。

○農政課(杉野) ありがとうございます。他にございますでしょうか。

それではご意見もないようですので、これで農林業近代化施設の解体に関する説明会を終わりにさせていただきます。本日はご足労いただきありがとうございます。

午後3時23分閉会